

自衛隊神奈川地方協力本部

「来年度の入隊予定者及び今年度の受験者に対し浜松基地見学を実施」

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 松浦一海尉）は、8月8日（水）航空自衛隊浜松基地の協力を得て、来年度の入隊予定者、今年度の受験者を含む20名に対し浜松基地見学を行った。

まず、第1航空団渉外広報室の隊員がマイクロバスに同乗し、基地内を移動しながら概要説明を行なった。午前中は、第1術科学校に入校中の学生居室等の居住空間を見学し、女性自衛官から居室内の説明を受けた。見学者には、女性の受験者も多く参加しており、色々な質問を積極的にしていた。特に洗濯室や大きな物干し場に驚きの声を上げていた。

次に第1術科学校の幹部学生に対するF-15戦闘機を教材にした内容の授業風景を見学した。その後航空機整備教官からF-15戦闘機の概要説明を受け、その後の質疑応答では、授業内容に関して「今どのような内容の授業を行っているのか」「航空機の事を何もわからなくても整備員になれるのか」といった質問があり、航空機に興味がある学生は普段近くで見ることが出来ない戦闘機に興味を示していた。

その後、第1航空団においてT-4中等練習機の整備現場を見学した。ここでは、整備補給群に所属する現役の隊員から整備現場の説明及び航空機整備員について概要説明があり、その後全員がT-4中等練習機のコックピットに着座し説明を受けた。初めて自衛隊所属の航空機に着座した見学者は始終笑顔で隊員の説明を受け「とても感動しました」という声が聞こえ、隊員も笑顔で「航空自衛隊に入隊してください」と挨拶をしていた。

次に見学をした管制塔では、陸上自衛隊に所属する航空機として、CH-47やOH-6D等の珍しいヘリコプターや航空学生が離発着させる第1航空団所属のT-4練習機を管制官が英語で離発着の誘導を行う現場を目の前で見ることが出来た。管制塔は見学中も航空自衛隊所属の航空機や陸上自衛隊の航空機、それ以外にも民間所属のヘリコプター等を警戒し、安全に航空機を運航するために忙しく管制官が勤務を行っていた。見学者からは「どうすれば管制官になれるのか」「英語能力は高いとだめなのか」といった質問が矢継ぎ早に飛び、管制官に対する興味が湧いた見学となった。

見学に満足した様子の学生から「将来自衛官になるという気持ちが一層増した見学になりました。自衛官になれるよう勉強を頑張ります」と意気込みを述べていた。

横須賀地域事務所は、「今後も継続してHPを利用したイベント案内を実施し、今後も積極的に部隊と一体となって志願者獲得を目指し、自衛隊に興味を持ってもらえるような募集活動をしていく」としている。



初めての航空機（T-4）

「しらせ」との再会～お爺ちゃんと見た景色～

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 兼本 貢祐一海佐）は、9月1日（土）と9月2日（日）の2日間、横浜港大さん橋（横浜市中区）にて6年ぶりの砕氷艦「しらせ」の一般公開を実施した。

両日ともに台風21号の影響により荒天予報がされていたにもかかわらず、時折雨の降る岸壁にて傘を差しながら列をなして並んでくれた来場者数は2日間で7,669名だった。

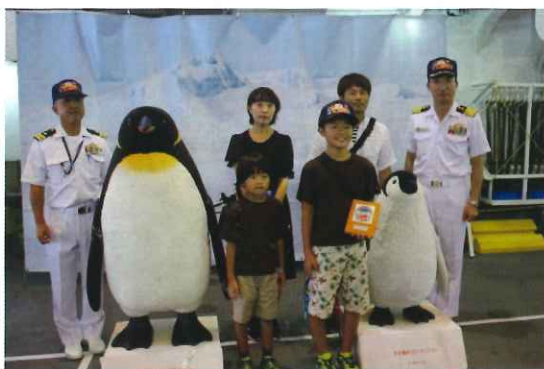
「しらせ」乗組員による特別公開には、2日間で357名もの募集対象者が参加し、一般公開では入れない場所へ案内されたり、艦内喫食したりと、約1時間の見学を終えた募集対象者達の顔がとても充実したように見えた。

一般公開での来場者の中には、「30数年前、子供の頃にお爺ちゃんに連れられて初めて当時の「ふじ」という海上自衛隊の船を見ました」という方や、「平成24年度横浜港での「しらせ」一般公開を見に来た時に買った識別帽です」と、年季の入った識別帽と今回新たに購入した新品の識別帽を嬉しそうに話しながら隊員へ見せていた姿がとても印象的だった。

この一般公開は、よこはまコスモワールド（泉陽興業株式会社）の「北極・南極の水と流水展」に「南極の水」を提供するというイベントコラボに併せての入港でもあるので、当日はよこはまコスモワールドのキャラクター「コスモくん」も登場してくれた。「コスモくん」が現れると、長時間並んで疲れていたお子さんだけではなく、大人でも握手を求めたり写真を撮るなどして並んでいる人達に笑みがこぼれた。

また、「しらせ」の番号である5003番目の来場者には「しらせ」艦長（宮崎 好司一海佐）より記念品の楯と帽子が贈呈され、当選した来場者はとても嬉しそうに受け取っていた。

神奈川地本は「今後も、部隊や艦艇などの協力を得て積極的にイベントに参加し、自衛隊へ興味を持ってもらえるような広報活動に努めたい」としている。



しらせ5003番目の来場者へ記念品の贈呈
艦長・宮崎一海佐（写真：右）



コスモくん登場！